

2-O-3

## 母性看護学における情意領域の育成を目指した教育内容の分析と教育方法

島内敦子  
鎌田美智子 伊東美智子

看護系大学の激増の中、専門職としての質の保障を目指した教育運営が重要視され、到達度評価がクローズアップされている。本学科では、短大開設当初から臨地実習科目を中心に、一般教育におけるブルームや梶田らの「クライテリオン・リファレンスト、形成評価、教育目標分類」の考え方を活用してきた。具体的には、教育内容を「認知的領域・情意的領域・精神運動的領域」に分析し、目標に応じた指導方法を考え、到達状況を確認しつつ（形成評価）、望ましい結果に導く（到達度の総括評価）取り組みである。特に「情意領域」の教育内容は、関心・感受から心身を乗り出し、価値を志向し追求する意欲や態度、といった人間行動の起爆剤的役割を果たすことにつながる。

そこで、今回その一つとして、母性看護学の演習科目における取り組みを紹介する。母性看護学は、対象が次世代育成に関わるすべての人々であり、近年の急激な生殖医療の発達を背景とし深く生命倫理に関わる領域である。これは、本学科の教育目標にある「いのちを尊重し向き合うことができる豊かな人間性を育む」ことに直結した教育内容を有する領域である。その中の演習科目「看護対象論Ⅳ（母性・父性）」の学修到達目標を「クライテリオン・リファレンスト」を基に分析し、特に情意領域の育成を目指した内容となる「母性看護における倫理」のディベート形式で行う教育方法について、学生評価も含め、分析したので報告する。

2-O-4

## へき地における看護に関する研究の動向

伊東美智子  
長尾厚子 黒野利佐子

【背景・目的】平成25年度から『5疾病・5事業及び在宅医療』として、医療連携体制の構築に向けた取り組みの一事業に、「へき地医療」も取り上げられた。筆者は離島の診療所で4年半勤務した経験があり、へき地特有の医療サービス提供の困難さや楽しさに触れた。元からその土地の者でない看護職が、どのようにしてその地に馴染み、前職での経験とどのように折り合いをつけながら、その地の看護職になってゆくのかということに関心を抱くようになっていった。そこで、へき地で勤務する看護職者向けの教育や学習に関する最近の研究動向を知る目的で、先行研究の文献レビューを行った。

【方法】医学中央雑誌 Web 版 2015 年第 15 号（平成 27 年 8 月 1 日更新）を用い、「へき地」&「看護」のワードで検索した 347 件のうち、「教育」を追加した 41 件、「学び」で 11 件、「学習」で 17 件、「語り」で 3 件、についてそれぞれ検討した。

【結果】最も研究件数の多かった「教育」の内容は、1. 看護活動の現状把握 2. 看護職の研修体制や学習意欲 3. 医師や医療との連携 の 3 つに分けられた。「学び」と「学習」の研究では、殆どが「教育」で抽出された文献と重複しており、新規に検出されたものは、離島に定住したからこそ培えた住民との関係性に着目したものと、現地の看護部長ならではの、現実的な訴えが紹介されていた。「語り」では、離島へ1年間の出向体験の語り分析されていた。